

HUE-LANDSCAPE

ヒュー・ランドスケープ

No.3
2005
WINTER

北海道教育大学

HUE-LANDSCAPE 2005 WINTER No.3

平成17年12月 発行
発行:国立大学法人 北海道教育大学
編集:北海道教育大学学園情報誌HUE-LANDSCAPE編集局
編集協力:株式会社アイワード
北海道教育大学ホームページ
<http://www.hokkyodai.ac.jp/>

HUE-LANDSCAPE に関するご意見、ご感想をお待ちしています！ 掲載したい楽しい企画、ちょっといい話などお気軽にお寄せください。
メールアドレス
landscape@sap.hokkyodai.ac.jp

HUE-LANDSCAPE は学生スタッフが活躍する学園情報誌です！



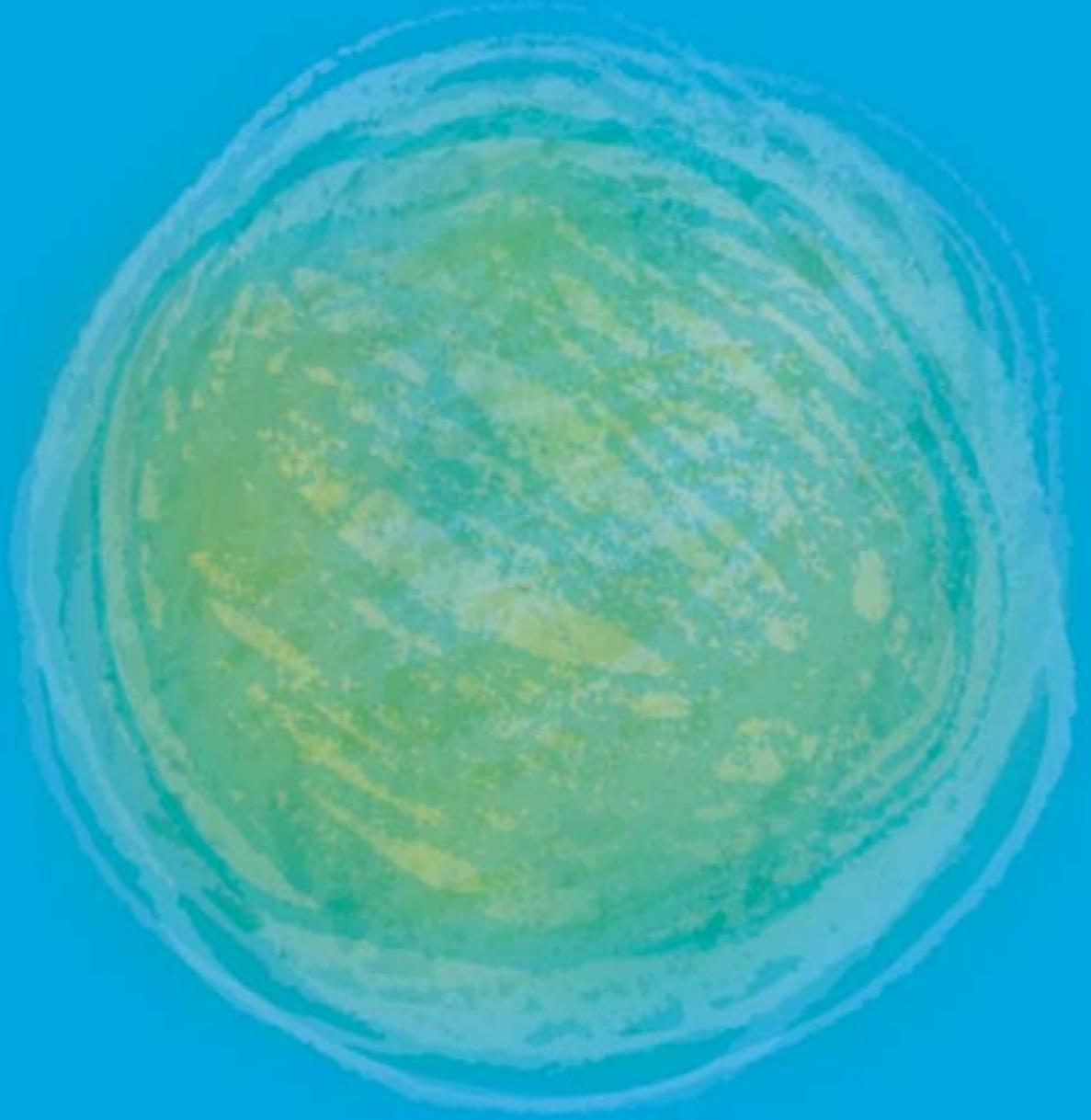
猪野田三紗子 札幌校
追久保里華 函館校
小野 誠 岩見沢校
菊池望美 釧路校
坂下賢匠 函館校
佐藤友美 釧路校
副島千佳 函館校
林 優季 旭川校
堀 有希子 札幌校
村田和陽 岩見沢校
吉川健太 旭川校

●らくがきイラストをお寄せくださった方々のお名前
吉川太祐さん、赤松賢太さん、佐藤拓さん、宝生さん、Ogura Norihikoさん、森のなかまたち、
その他大勢の方々（今回載せられなかったイラストが第4号に載っているかも）

ボランティヤ

特集

行動にあらわれた思いやりの心



「ボランティア」とは そもそもどんなこと？

「ボランティア」と聞いて、皆さんはどんなことを思い浮かべますか？

「自分を犠牲にして、世の中のためになることをする」「何かの団体に入って奉仕活動をする」

「関心はあるけど、どこで何をやったらいいかわからない」「人の役に立つことなんか自分にはできない」……

実は、「ボランティア」というのは、たとえささいなことでも人の助けになること、社会をより良くすることを、自分ができる範囲で、自発的に、利益を目的としないで行うことなのです。



こんなことも ボランティア！

さて、次の中で「ボランティア」はどれでしょう？

- 近くの児童会館で、子ども達と遊ぶ
 - 地震や津波などの被災地の救援を行う
 - 古切手やベルマークを集めて寄付をする
 - 献血をしたり骨髄バンクに登録したりする
 - 隣に住むお年寄りのために除雪のお手伝いをする
 - 福祉施設で高齢者の話し相手をする
- これらすべて「ボランティア」です。道に落ちているゴミを拾う、お年寄りや身体の不自由な人のために荷物を持つ、どんな小さなことでも「ボランティア」!!



行動にあらわれた
思いやりの心

ボランティア



気をつけて おきたいこと

人として基本的なルールが必要です。例えば……

- 相手や仲間の迷惑にならないようにする。——約束は守る、休むときは連絡をする、プライバシーは守るなど。
- 相手の立場に立って行動する。——相手が必要としていることを、「やってあげる」という気持ちではなく、対等の立場で行う。
- 無理をしない。——自分に合ったことを、自分の生活リズムに合わせて楽しく行うのが、長続きするボランティア!!

ボランティアって、恥ずかしい？
いえいえ、そんなことはありません。
みなさんの周りにだって
ボランティアにかかわっている人は、
たくさんいます。
今回は、そんな人たちを大特集！
これを読んで、
あなたもボランティアにチャレンジ!!

●次のホームページを参考にさせていただきました。

「北海道ボランティアセンター」(北海道社会福祉協議会) <http://www.dosyakyo.or.jp/hokkaido-vc/index.htm>

「ボランティアに関すること」(札幌市保健福祉局総務部総務課) <http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/somu/etc/bora.htm>

「ボランティアとは？」(国連登録NGO 横浜国際人権センター) <http://www.yihrc.jp/volunteer/01.html>

- 002 特集
行動にあらわれた思いやりの心
ボランティア
- 003 ボランティアとは？
- 004 函館校/じろじろ大学「夏の学校」
「まち」を見つめ「まち」をさぐり
「まち」を創り上げる
- 006 旭川校/ボランティアサークル「こももかい」
ボランティアだとは思っていません。
自分の勉強として取り組んでいます。
- 007 釧路校/障がい児教育研究サークル「桜」
なかよしクラブ、ひかり学園、
遊びクラブetc...の大勢の仲間とともに
- 008 岩見沢校/子ども会ボランティアサークル「ACいわみざわ」
子どもたちと一緒に楽しく遊び
子どもたちの成長を見守る
- 009 札幌校/教育支援活動(SAT)
札幌・石狩など近隣の小学校・中学校の
教育活動を積極的にお手伝い
- 010 多くの人たちが活躍するさまざまなボランティア
- 010 有珠山噴火の時のこと—村山紀昭学長から
- 011 保健管理センター発
- 011 人権の相談
- 012 副学長からのメッセージ
●函館校担当/奥田 亨先生 ●岩見沢校担当/山口義寛先生
- シリーズ
- 014 研究ファイル
- 018 人気講座拝見
- 018 施設紹介
- 019 人事交流
- 020 INFORMATION
- 022 地域に開かれた大学—地域貢献
- 024 国際交流NEWS
ルワンダの現状、そして本当の発展とは...
もっと知りたい留学生！
- 027 キャンパス・周辺 ちょっといいところ

HUE-LANDSCAPE

このキャンパスから眺める今現在の風景と、これから創造していく自分と社会の未来の風景という意味をこめてつけました
●HUEは"Hokkaido University of Education"より

特集・ボランティア

「まちのだからもの」を通して、
大学生と小学生とが
共に学びあう

第三回目となる今年度の「夏の学校」は、八月四日〜七日に開かれました。今年度のテーマは、「まちのだからもの」。子ども達が発見した「まちのだからもの」で絵本を作るとい活動です。四日間という短い期間で「まち

おり、こうした学びあいは、日常生活ではなかなか経験できないものです。こうした経験は個人的によい刺激になるだけでなく、「まち」活性化の一つの原動力を担える人づくりにも役立つと思っています。

「のだからもの」を発見し絵本にしてもらうという事は、子ども達にとって容易なことではないのですが、参加した子ども達全員が思いのこもった本を完成させ、みんなの前でも楽しそうに発表してくれました。

子ども達が発見した「まちのだからもの」は、大学生や大人の視線では気付かないものばかりで、大学生の私達も「まち」の新たな再発見ができました。そして、何よりも大きな収穫となったのは、大学生も子どもと共に絵本づくりができたということです。去年までの「じろじろ大学」では、大学生は子ども達のまち歩きや製作の手助けという役割だったのですが、今年度は学生自らも一緒になって「まちの

「のだからもの」を探したり、絵本の製作をしたりと、「じろじろ大学」という大学の学生として共に学びあえたことが良かったと思います。これからの「じろじろ大学」も今年のように共に学びあいができる活動を目指したいと思っています。



イカの塩辛工場見学



1日の見学まとめ



街歩きアクティビティ



文=伊藤健太さん
函館校情報社会教育課程
社会文化情報コース3年
じろじろ大学「夏の学校」
プロジェクト代表

じろじろ大学「夏の学校」は、地域との連携を意識して立ち上げられたプロジェクトです。この立ち上げには、地域に貢献する大学の可能性とは如何なるものか、という問題提起も含まれています。この問題を解決するための糸口を、地域をフィールドにした学びの実践から見出すと考えたのです。

「じろじろ大学」の参加者は函館近郊に住む小学三〜六年生です。サマースクールを開き、函館西部地区での体験学習やフィールドワークを通し、「まち」をじっくり見つめ、子ども自ら「まち」の新たな一面を探り、よりよい「まち」づくりにつなげようとする活動でもあります。

また、「じろじろ大学」では、小学生とか大学生とかいった年齢や所属を超え、共に学びあうことも目的として

「まち」を見つめ
「まち」をさぐり
「まち」を創り上げる

今年で第三回目 小学生を対象としたサマースクール
学生がボランティアとして、子どもと共に学ぶ
じろじろ大学「夏の学校」●函館校



地域に貢献する大学、
そして「まち」活性化の
原動力を目指して

子どもたちに絵本の素晴らしさを伝える
ボランティアサークル「こももかい」代表
中嶋宏美さん・菅野可奈子さんにインタビュー ● 旭川校

ボランティアだとは思っていません。自分の勉強として取り組んでいます。



スタッフミーティング(左から高橋ゆかりさん、菅野可奈子さん、中嶋宏美さん)

話=中嶋宏美さん
旭川校生涯教育課程
生活情報コース3年
話=菅野可奈子さん
旭川校生涯教育課程
生活情報コース3年

絵本の読み聞かせを通して子どもと関わる

「こももかい」とは、どのようなボランティアサークルなのか。

中嶋さん 「こももかい」は、主に北海道教育大学附属旭川小学校に一ヶ月に二回行って、子どもに絵本の読み聞かせを行っています。その他には、剣淵町の絵本の里のイベントのお手伝いや、絵本の里大賞授賞式への参加、子ども富貴堂での絵本の読み合いなどの活動をしています。

「こももかい」は、どのような経緯で発足したのですか。

菅野さん このサークルは、二年前に本校の卒業生が立ち上げました。「こももかい」の名前も、卒業生が名づけてくれました。

「こももかい」は、どのような経緯で発足したのですか。

「こももかい」は、どのような経緯で発足したのですか。

てくれました。「こももかい」だったので、子どもがうまく発音できなくて「こももかい」と言ったことがきっかけです。

「こももかい」に参加しようと思っただけです。

中嶋さん 私は、この活動をボランティアだとは思っていません。絵本の読み聞かせを通して子どもと関わることで、様々なことを吸収することができます。自分の勉強としての意味合いが強いと思っています。

子どもの反応が直に返ってくる

「こももかい」の活動をしていてよかったなと感じたことはどんなことですか。

「こももかい」の活動をしていてよかったなと感じたことはどんなことですか。



①サマーキャンプ/水遊びの様子
②なかよしクラブ/細作業の様子
③なかよしクラブ/サマーキャンプ/昼食の様子
④なかよしクラブ/城山小で/手遊びの様子

なかよしクラブ、ひかり学園、遊びクラブetc...の大勢の仲間とともに



長い活動の歴史を持ち、広く認められたボランティアサークル「終」●釧路校

「学校よりも甘く、家庭よりもからい」世界として

現在最も大きな柱となっているのは、毎週金曜日の午後一時半から五時

半(場合によっては四時半のことも)に城山小学校の空き教室と教育大学の多目的室で行われる、障がい児のための学童保育所「なかよしクラブ」です。小学生から中学生の特殊学級や養護

中嶋さん 絵本の読み聞かせは、朝の読書の時間を使って、教室で行います。教室という狭い空間で絵本の読み聞かせをしていると、子どもの反応が分かりやすく、直に返ってきます。そんなときに、楽しんでもらっていると実感し、嬉しく思います。子どもって、私たちが気づかないような小さなことに気づいたり、考えたりするんです。子どもの想像力は本当にもろく、豊かです。他にも、イベント等に参加する中で、旭川出身の有名な絵本作家に会ってお話をするなど、貴重な体験も出来ました。実は、「こももかい」のキャラクターも、絵本作家の方に描いて頂きました。

菅野さん 初めは、子どもに読み聞かせる体制を作るのが難しかったです。子どもが静かにならなかったり、立って歩いてしまったりしました。椅子に座らせてやっていたのですが、それではなかなか上手くいかないで、机を下げて読み手の前に集めるなど、試行錯誤を繰り返しました。最近はやっと子どもの中にも定着してきたようです。



附属旭川小学校での読み聞かせ



Interviewer

林 優季(左)

旭川校学校教育教員養成課程保健体育専攻3年「こももかい」のみなさんは、とてもあたたかく取材に応じてくれました。子どもと楽しそうにふれあう姿が印象的でした。

吉川健太(右/写真撮影担当)

旭川校生涯教育課程生涯スポーツコース3年



学校に通う子どもたちと遊んだり企画を行ったりしています。「学校よりも甘く、家庭よりもからい」という「第三の世界」として、多くのひととの関わりの中で、学校や家とは違った自立的世界を形成し、普段家で体力を持て余している子どもたちが、学生のお兄さんお姉さんと一緒に、または子ども同士で思いっきり遊び、活動できる場として貴重な役割を果たせることを目指しています。また、クリスマス会、お別れ会、もちつき、キャンプなどの大きな企画・行事も行っています。

「ひかり学園」の園生さんと

「なかよしクラブ」と共にもう一つの大きな柱となっているものに「ひかり学園」の社会見学のお手伝いがあります。園から指定された日に学園まで出かけて行き、園生さんと一緒にバスに乗り、買い物をしたり、ゲームをし

たり、食事をしたりして学園まで帰ってくるという活動です。社会見学の他にも、企画を持ち込んだり、運動会へボランティアとしてお手伝いに行ったりもしています。

広がる活動の場、学習の場

単発のボランティアの活動は、各種事業における託児保育やお手伝いが中心です。

サークル員同士の学習の場として、リズム遊びや手遊びなどを「遊びクラブ」(昭和どんぐり保育園)で習い、それを「なかよしクラブ」や託児保育に生かしています。また、手話の会に通うサークル員から毎週のミーティングで手話を教えてもらっています。

また、学習会では障がいについての理解を深めたり、「終」の活動内容について話し合ったりしています。

「終」の歴史

- 1976(昭和51)年に始まる。「何らかの形で障がいを持った人と交流したい」と考えた数名の学生グループが知的施設「ひかり学園」と関わりを持つ中でサークル誕生へ。
- 1995(平成7)年度。それまでの活動が認められ、活動を奨励すると共に本道の社会福祉の向上を支援することを目的とした「道新ボランティア奨励賞」(北海道新聞社会福祉振興基金)という名誉ある賞を受賞しました。
- 1996(平成8)年度。釧路で初の障がい児のための学童保育所「なかよしクラブ」が開所し、ボランティアスタッフとして活動に関わるようになりました。
- 1997(平成9)年度。「なかよしクラブ」での活動記録をまとめたレポートを釧路市合同教育研究会で発表し、さらに全国大会まで出場することになりました。



なかよしクラブ/子どもと一緒に



Reporter 佐藤友美

釧路校大学院教育学研究科教科教育専攻1年匿名で見せていただいたお母さん方からの手紙には、「良い経験になっている」との声がかけていました。長い歴史のあるサークルですが、これからは設立当時の先輩方の想いを受け継ぎ、頑張ってください。

子どもたちと一緒に楽しく遊び 子どもたちの成長を見守る

子ども会ボランティアサークル「ACいわみざわ」遊びクラブ ●岩見沢校



文＝清野泰臣さん
岩見沢校学校教育教員養成課程
数学科教育専攻3年
「ACいわみざわ」代表

子どもたちと一緒に 一年中いろいろな遊びを

「ACいわみざわ」は、大学の近くの地域に住む幼稚園から中学生の子どもたちと毎週土曜日十四時から十六時まで一緒に遊ぶ活動をしているサークルです。毎週の活動には、私たちスタッフは十〜十五人程度参加し、二〇名程度の子どもたちと、外で自由に野球をしたり、鬼ごっこをしたり、一緒にうどんを作ったり、お菓子を作ったりという活動をしています。また、季節に応じて、夏は水遊びをしたり、冬にはクリスマスパーティーをしたりと、季節ごとに工夫した企画もします。

子ども・大人・先輩・後輩に 関係なく

また、スタッフにはACネームというニックネームのようなものをつけ、学年に関係なくお互いを呼び合っています。子どもにも大人として私たちスタッフを見るのではなく、一緒に遊ぶお兄さん・お姉さんの存在として見

てほしいので、ACネームで呼んでもらうようにしています。「AC」では子ども・大人・先輩・後輩というのではありません。

子どもが成長する姿が たまらなく嬉しい

「AC」の魅力は、子どもたちと楽しく遊べることはもちろんですが、子どもたちの成長をみられるというのも魅力のひとつだと思います。最初のころは、自分のことばかり考えていた子が、周りの小さい子にも気を使い、一緒に遊んであげたりする姿をみると、たまらなく嬉しい気持ちになります。「AC」によって初めて出会った子ども同士が仲良く遊んでいる姿を見たりしても嬉しくなります。

「AC」に入っているスタッフは、子どもが好きな人が多く、子どもたちよりスタッフが楽しんでいることもしばしばです。わたしたちは、子どもたちもそして自分たちも楽しめるサークルを目標にしています。



先生方の生の授業が見られる 贅沢な機会

——教育支援活動を始めた動機は何ですか。
阿知良さん 実際の生徒や現場に触れられる活動だと聞いたので、説明会に行ったら、そのままやることになりました(笑)。
北浦さん・近藤さん 同じ！

近藤さん 私は現場でどういう支援が求められているのかを学びたかったし、何より先生方の生の授業が見られるのはすごく贅沢な機会だと思います。
——活動では具体的にどんなことをしているのでしょうか。
北浦さん 僕は、障がいのある子どもの指導補助にいたり、教科の授業についていたり。複数の学生が分担しあい、色々やらせてもらっています。

近藤さん 活動はそれぞれですね。私は遠足の引率にも行きましたが、集団が外に出る時って、ボランティアの手が必要ですね。低学年だと迷子になる子どももいたりして。
——実際に学校へ行ってみてどうでしたか？
阿知良さん すごく平和な雰囲気で、「荒れ」みたいなものは程遠い感じがしました。

近藤さん そうだね。のどかというか、それになんだかのんびりしていて。一

子どもは遊びそのものが生活

時間目、二時間目っていう区切りが今はないんですよ。
北浦さん でもやっぱりチャイムがないのは慣れなかったです。
近藤さん そう。私たちが先生になったときも、時間の分け方ってしっかりしなきゃいけない。

——では、現在の活動が、今後の自分にどう生かされると思いますか。
近藤さん 私は子どもとたくさん遊びました。子どもは遊びそのものが生活で、生活そのものが遊びで、そういう考えは自分が教師になってからも持ち続けたいですね。

北浦さん 実際の現場を見ることで、自分が教職に就いた時のイメージを作ることができ、これから教員という仕事を考えていく上ですごく役立つし、良い経験になっています。
阿知良さん 教育実習に行っても、こういう活動をしていなければきっと初日なんてすごくドキドキしてしまうと思う。だからこうして一年を通してやっていくことで、学校の雰囲気がわかってくるというのは大きいと思います。

——生の意見が聞ける貴重な機会になりました。今日はありがとうございました。

札幌・石狩など 近隣の小学校・中学校の 教育活動を積極的にお手伝い

スクールスタックボランティア
教育支援活動(SAT)に参加する
学生三人が集まりました●札幌校
座談会を開きました●札幌校



話＝阿知良洋平さん
札幌校学校教育教員養成課程
教育実践専攻1年
●支援先の学校
札幌市立新陽小学校



話＝北浦貴之さん
札幌校学校教育教員養成課程
教育実践専攻1年
●支援先の学校
札幌市立拓北小学校



話＝近藤宙絵さん
札幌校学校教育教員養成課程
教育実践専攻1年(幼稚園教諭を
経験したのち、本学に入学)
●支援先の学校
札幌市立露路小学校



遠足のお手伝い(近藤さん)

Interviewer

猪野田三紗子(左)

札幌校学校教育教員養成課程国語国文学専攻1年
リラックスした雰囲気でもらえました。学生同士集まってこう
いった話題について話すことは少ないのでは？面白い話をたくさん
聞けました。同じ学生なのですが、この人たち、かっこいい！

堀 有希子(右/写真撮影担当)

札幌校学校教育教員養成課程教育実践専攻2年



函館校

サマースクール
[障がいを持った
子どもたちとの交流]

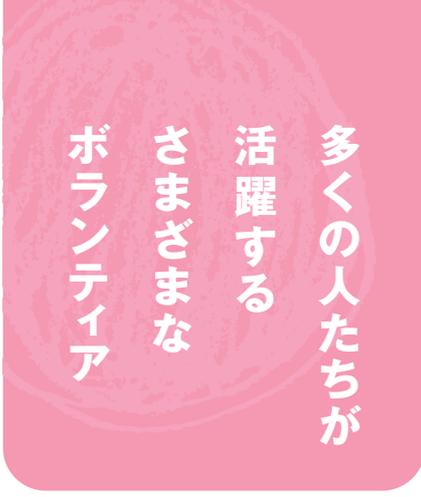
函館校では、障がいを持った子どもたちの交流の機会として、夏休み期間にサマースクールを開設していますが、これを支援するボランティア活動に函館校の多数の学生をはじめ地域の現職教員が参加しています。6年を経た現在、地域ぐるみのサマースクールとして全国から注目される活動となっています。

釧路校

ADHD/LD/PDD学校支援サークル
すなふきんくらぶ



私たちは、軽度発達障がいやその周辺の友達関係をうまく築けない子どもたちを対象として活動しています。発足から4年と歴史は浅いながらも、教師の卵である教育大生が子どもたちのスキルアップのためにできることを模索し、活動形態を変えてきました。当初は家族のリフレッシュのための託児でしたが、現在は少人数での子ども同士の関わりへの支援を中心としています。(取材…菊池望美/釧路校学校教育教員養成課程国語教育専攻2年「子ども達のことを真剣に考え活動している、すばらしいサークルでした。取材に協力してくださって、ありがとうございました。」)



旭川校

TAS
(Teaching Assistant System for Sports)

TASは、北海道教育大学50周年記念事業の一環である「チャレンジプロジェクト」として1998年に誕生しました。主に旭川市および近郊の小・中学校の体育や少年団、部活動(水泳、野球、サッカー、バレー、スキーetc.)の実技指導の補助を行っています。

岩見沢校

ユリカ
[フリースクール、
語らいの集い、
フリースペース]



「ユリカ」は、岩見沢校の裏手にある一軒家を借りて活動するフリースペースです。昼間はフリースクールとして地域の子どもや保護者が集まり、いろいろな行事を楽しみ、夜は月に1回、飲食物持ちよりの宴「語らいの集い」をしています。岩見沢校の学生の他、様々な大学の学生たちがボランティアとして協力してくれています。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.ne.jp/asahi/ipceureka/iwamizawa/>

札幌校

ボランティアリーダー活動

国立日高少年自然の家などの施設主宰事業のボランティアリーダーとして、小中学生や障がいのある子ども、家族連れなどと一緒にキャンプや各種レク、野外炊飯などの活動を行っています。本当に楽しいし、他大学のボラ友もできるし、勉強になることも沢山です。興味がある方一緒にやってみませんか？ 気軽に声をかけてくださいね！（木澤佑介さん/札幌校学校教育教員養成課程外国語外国文学専攻1年）

釧路校

「ボランティア実践」
学校支援学生ボランティア

この制度は、釧路市教育委員会と北海道教育大学釧路校が協定書を交わして実施しています。地域に根ざした教員養成の一環として、学生が学校・地域において貢献することを通して、釧路市における学校教育活動の向上と、教職を目指す学生の実践的資質の向上を目指しています。この活動を単位化(2単位)し、一般教養科目に指定して選択必須としています。

札幌校

子ども会サークル
ずんがりセツルメント

私の所属する子ども会サークル「ずんがりセツルメント」は、主に公園や会館で、幼児から小学生を中心とした子どもたちと様々な遊びをしています。行事を企画して出かけたり、料理や工作をしたりすることもあります。遊びを通して子どもたちと楽しさを共有し、子どもたちにも思いやりや社会的ルールなどを学んでもらいたいという目的があります。(中嶋美香さん/札幌校学校教育教員養成課程教育実践専攻2年)



ボランティア活動への期待を語る
有珠山噴火の時のこと

北海道教育大学長
村山紀昭



学生の皆さんが多くのボランティア活動に取り組んでいることは、わが大学の大きな特徴であり誇るべきことです。このことが僕の頭に強く刻み込まれたのは、五年前の有珠山噴火の時でした。学長になってまもなく、有珠山噴火で住民多数が避難生活をしているニュースを見て、避難所の子ども達に何か喜んでもらえることができないかと思い、長年顧問をしていた札幌校の子ども会サークル「ずんがりセツルメント」に呼びかけて三〇人くらいで現地と一緒に行ってきました。連絡を頼んでおいた道教委のおかげで、子ども達と楽しく遊ぶことができました。

しかし、学生達は、この善意を心の底にしまい込んでおきたくなる経験をしました。遠くの鹿児島大学教育学部四年の男子学生をはじめ大勢の大学生が全国から自主的に個人で参加し援助活動に加わっ

ていました。彼らから話を聞きショックを受けたようです。特に鹿児島大学の男子学生は、人のために何かをしてやっている、といった発想が少しもありませんでした。学生達は、これこそ教育の原点だと感じ取ったようです。

これ以来、学生のボランティア活動がもっと盛んになるよう、大学としても応援体制を作ろうと取り組んできました。全国でもいち早く学校支援ボランティアを広げてきたのもその一環です。最近では、学生の皆さんが自発的に、新鮮な発想で、多様な活動を広げており、とても嬉しく思っています。

教育大の学生ならボランティアは当たり前、ボランティアってトレンディで、若々しい活動ですね。

保 健 管 理 セ ン タ ー 発



2年生になった 「教育大学無煙化5ヵ年計画」

「健康増進法」の施行にともない、本学は平成16年度から建物内完全分煙になりました(保健管理センタースタッフの本音は敷地内禁煙です)。学生のみなさん全員が非喫煙者として社会へ飛び立って欲しいとの考えのもと、同年度から「教育大学無煙化5ヵ年計画」を実施しています。

これまで、未喫煙の新入・編入学生さんが喫煙者にならないことを願って、パンフレット・講演を通して



喫煙の害を訴えました。また、現喫煙者には喫煙と無縁の学生生活を送られるように「禁煙支援」を始めました。「たばこの害 測定してみませんか?」と銘打ったイベント(写真)では、呼気中の一酸化炭素ガス濃度の測定と、掲示物・ビデオ上映による喫煙の害や禁煙方法の紹介をしました。これをきっかけに本センタースタッフの支援のもと、禁煙(ニコチンパッチ使用者12名、非使用者2名)をはじめた学生さんもいます。禁煙についての相談はいつでもウエルカムです。チャレンジしてみませんか?

気軽な「カウンセリング」 利用のすすめ

今までは、特に気にならなかったことが、急に大きな問題のように思えてくることがあります。それは、健全な発達をしているという考え方もできます。もし、自分でどうにもできないとあなたが感じたとき、保健管理センター・各分室にいるカウンセラーを利用してみてはいかがでしょうか。内容は、学業、進路、友人や教員との関係、性格、セクシュアル・ハラスメントなど、また、自分以外の人(家族や友人)についてでもいいのです。もちろん、秘密は厳守されます。各分室で予約ができますので、看護師に声をかけてください。



人 権 の 相 談

セクシュアル・ハラスメントなど人権にかかわる相談について

本学は、精神的にも身体的にも安全な環境の中で教育・研究活動ができるよう、セクシュアル・ハラスメント等の防止を大学全体の問題として取り組んでいます。

どこに相談したらいいのでしょうか?

- 各キャンパスにはセクシュアル・ハラスメントなどの人権にかかわる被害を受け付ける窓口が設置されています。
- 相談窓口では、あなたに適切な相談員を紹介します。
- 相談員は、男性・女性の両性により構成されています。
- 他のキャンパスの相談員に相談することもできます。
- 自分に直接被害がなくても、相談できます。
- プライバシーは守られます。きっとあなたの力になれます。
- 混乱して誰に相談してよいかわからないときは、教職員の誰でも構いませんので相談してください。大学では決してそのままにしておきません。



※相談員の氏名は各キャンパスにおいて、ポスター、パンフレットまたは掲示などでお知らせしています。

セクシュアル・ハラスメントをなくすには、どうしたらいいのでしょうか?

お互いを人として尊重することがもっとも大切です。言うまでもなく、大学は教育の場です。「個人の尊厳」(教育基本法)を重んじることほど大切な原理はありません。わたしたちは、気づかずに社会における偏見や差別意識

にとらわれていることがあります。他人の立場を理解し、人を尊重する心を不断に磨いて、明るくハツラツとした、生氣あふれるキャンパスを作っていきましょう。

メッセージ

副学長(函館校担当)
奥田 亨先生に
インタビュー

**良き伝統を継承しさらに充実した
新しい函館校を創り上げていきます
好奇心旺盛で、夢を追い求める
学生になってほしい**

副学長というお仕事のご感想をお願いします。

まだ就任して一年ちょっとですが、去年一年間は新課程を創り上げていく時期で、今年はその肉付けをしています。来年新課程がスタートするわけですが、今までにない新しいものを創り上げていくという意味での難しさが、まだまだいへんな時期だと思っています。

来年からできる新課程について教えてください。

来年からの新しい課程では、そのキャンパスの特徴を明らかにし活かすことに重点を置いています。函館校は教員養成課程をもたないことになりま

が、今までの新課程の内容を集約し、さらに発展をめざそうとする(ただし、芸術・スポーツ教育分野は岩見沢校に)のが新しい「人間地域科学課程」です。

これは、ゼロからのスタートではなく、これまでのものを継承しさらに充実した内容を創り上げるといふふうになっています。

どのような趣味をお持ちですか。

週末の時間のある時に、大学の人たちや地域の人たちとテニスをするのが楽しみの一つです。釣りも子どもの頃から好きで趣味の一つです。しかし学生の頃スポーツはしておらず、クラスの間と大学の問題について議論し

たり、時には物理学などの自主ゼミの形式で勉強もしたりしました。

教育大生の印象と、今後学生たちに期待したいことを教えてください。

全体的な印象では、真面目な学生が多いと思います。しかし真面目さだけではなく、もっと好奇心旺盛になってほしい。

他には、自分の夢を追い求めてほしいですね。今の時代に夢を実現させることは難しいですが、あきらめないで努力すれば叶うと信じて、日々を過ごしてほしいと思います。

ありがとうございました。



Interviewer
坂下 賢匠
函館校学校教育教員養成課程数学教育専攻3年
副学長先生の学生の頃の話なども聞くことができ、とても楽しくインタビューさせていただきました。



Interviewer
追久 保里華
函館校情報社会教育課程社会文化情報コース3年
普段接する機会が少ない奥田副学長は、とても気さくな方で、楽しい取材でした。

**さまざまな「体験」を通して
感性を磨いてほしい
自分を表現するための4年間、
感性に磨きをかける4年間に！**

副学長(岩見沢校担当)
山口 義寛先生に
インタビュー



山口先生が研究なされていることは何ですか。

生体鉱物学を学んでいます。具体的には人間の歯や骨、貝殻など殻を持った動物を扱う分野で、私は巻き貝の生体鉱物がどのように沈着していくのかを顕微鏡を使って研究しています。また、去年は地質学の論文を学会に提出しました。一億年前の白亜紀の地質についても研究しています。

大学生の頃はどんな学生でしたか。

僕の入った大学は一年次の配属があまりありませんでしたが、元々は工学部を希望していました。入学してからは哲学書や理系の専門書を読んで自然科学や

地学に興味を抱き、勉強を始めました。アルバイトは今の学生がするようなものはありません。土木作業やサケを孵化させるための木箱を作ったことが印象に残っています。

学生にどんなことを学んでほしいですか。

実験、観察や実習を通しての「体験」が重要だと思っています。体験することによって欠かせないのは感性で、それをどのように磨けばよいのかを大学生活で学んでほしいと思います。

また教育大学ですから、人と人とのコミュニケーションの仕方学ぶべき要素のひとつではないでしょうか。人と人との関係性をいろいろな体験を通じて学んでほしいと思います。来年度からは新課程がスタートしますので、自分を表現するための4年間、感性に磨きかける4年間にしてほしいと思います。

ただ単に技術的なものだけ磨くのではなく、教養を含めた専攻分野をより深いところで学んでほしいですね。

休日はどう過ごしていますか。

大学で過ごしているときはなかなか体を動かす機会がないので、休日は妻と登山することがあります。遠出する

ことはあまりありませんが、山登りのベテランである妻と五年前から登って、よい汗をかいています。
楽しいお話、どうもありがとうございました。



Interviewer
小野 誠
岩見沢校学校教育教員養成課程社会学専攻3年
普段は副学長とお話する機会など持たないので、大変貴重な時間を過ごせました。



Interviewer
村田 和陽
岩見沢校学校教育教員養成課程外国語専攻3年
気さくな先生で、興味深い話ばかりでした。お聞きしたことを全て載せられなくて残念です。

●次号も続けて別のキャンパスの副学長にお話を伺います。

へき地教育研究センターの歩み



「北海道学芸大学移動教室」幟旗
大学教員が「移動教室」としてへき地校をまわりました(昭和20年代後半)

へき地教育研究センター(略称「へき研」)は、現在、岩見沢校にあります。創立の由来は、昭和二十七年に札幌校(当時は山鼻)に設置された「総合教育研究所」にさかのぼります。その機関誌『教育研究』第一号が「僻地教育問題」を特集して発行されたように、へき地教育は、北海道教育の重要な研究テーマでした。当時は、児童生徒数の増加に対して教師の数が不足していたり、学校の設備が不十分だったりなど、へき地校をめぐる諸問題の解決が急務だったからです。

昭和四五年には「僻地教育研究施設」と名称を変更し、現在とほぼ同じような研究組織になりました。僻地教育研究施設は、平成八年、札幌校(あいの里)から岩見沢校に移転しました。その理由の一つは、岩見沢校が以前から「へき地教育実習」を開講していたことです。この頃から、へき研は、研究活動だけでなく、学生への教育支援にも関わるようになっていきました。

平成十六年、国立大学の法人化と、へき研五十周年の節目を迎え、名称と組織も新たに「へき地教育研究センター」となりました。



①背中合わせでの複式授業②L字型での複式授業③教生先生をやっつける～！(子どもたちとの交歓風景)

研究ファイル

北海道の明日を築く 「へき地教育」の充実をめざして

北海道教育大学へき地教育研究センター

センター長
村田文江先生
(岩見沢校)

北海道には、およそ1400の小学校がありますが、そのうち53%がへき地校です。へき地校には、児童数が10名に満たない小規模校がたくさんあります。へき地校の教育は、都市部の大きな学校とは違った特色を持っています。へき地教育研究センターは、へき地校の特色ある教育内容や指導法、へき地校をめぐる地域社会のさまざまな問題などについて研究を行っています。

「へき地校」とは、主として、交通条件や公共施設に恵まれない地域にある学校を意味します。「へき地教育振興法」(昭和29年制定)にもとづいて、へき地度が最も高い5級から、1級・準へき地などの指定を受けます。

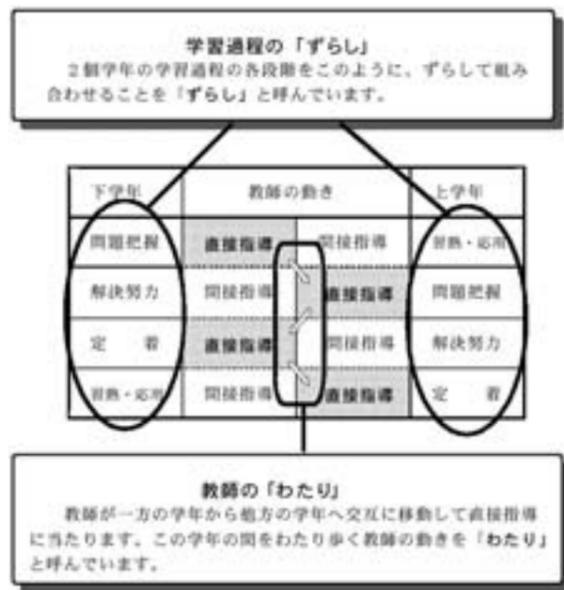
へき地校の 教育実践とつながる 研究活動

へき地教育研究センターの研究活動は多岐にわたっていますが、ここでは、へき地校の教育実践と連携する研究を中心に紹介しましょう。

「わたり」と「ずらし」 複式学級の指導法

へき地校は児童数が少ないため、一人の教師が二つの学年を担当するといふ複式学級が珍しくありません。複式

学級では、たとえば、三年生と四年生が同じ教室で学習し、教師は二つの学年を同時に指導することになります。ちなみに、一つの学年だけの学級を、単式学級と言います。二つの学年を同時に指導するには、当然のことですが、教師の児童への関



「わたり」「ずらし」



全員集合で、ハイ、ポーズ！
学校の全児童、全教職員、全教育実習生が集まりました

すでに岩見沢校や釧路校では、「へき地教育実習」などの科目名で、へき地校における教育実習が行われています。受講生は、一〜二週間という短い期間ではありますが、校区内に合宿して、へき地校の教育活動と地域社会の様子を丸ごと体験しています。

児童数の少ないへき地校では、一年生から六年生まで、すべての子どもたちと関わる事ができます。中学校を併置している場合は、小中が連携した教育活動を体験し、子どもの発達段階

の発想で行われています。また、過疎の進行と関わる「山村留学」については、実態調査を行ってシナリオを企画しています。学校統廃合など、へき地教育をめぐる社会的な問題も重要なテーマです。

へき地教育研究センターの活動は、

本学は、平成十七年度から「へき地・小規模校教育実践プログラム」の開発―地域と未来を開く教師教育―（注）に取り組んでいます。これは、へき地教育について学ぶ科目の拡充をめざすもので、なかでも「へき地教育実習」は、来年度からのキャンパス再編に伴い、教員養成課程の新カリキュラムに導入されます。

この取り組みの中で、へき地教育研究センターには、実習内容を充実させるための事前事後指導資料の整備など、多様な教育支援が求められています。双方向授業システムを利用した受講生によるフォーラムを開催し、へき地教育実習の様子を学べるように計画しています。複式学級の指導法についても、理解を助けるために映像資料を制作したり、特色ある教育実践などのデータベースの作成にも取り組んでいます。

この取り組みの中で、へき地教育研究センターには、実習内容を充実させるための事前事後指導資料の整備など、多様な教育支援が求められています。双方向授業システムを利用した受講生によるフォーラムを開催し、へき地教育実習の様子を学べるように計画しています。複式学級の指導法についても、理解を助けるために映像資料を制作したり、特色ある教育実践などのデータベースの作成にも取り組んでいます。

* * *

■へき地教育研究センターの教員

- 札幌校 杵淵 信 増淵哲子 濱地秀行
- 函館校 内藤一志 山口好和 根本直樹
- 旭川校 吉田正生 前田和司 村田育也
- 釧路校 廣田 健 中川雅仁 重松克也 高嶋幸男
- 岩見沢校 能條 歩 前田賢次 寺田貴雄 村田文江



■Webホームページ
へき地教育研究センターのホームページには、これまでの紀要やへき地校のデータベースがあります。
<http://reiw.iwa.hokkyodai.ac.jp/hekiken/>



■出版物
『複式学級における学習指導の在り方～学年別指導の実践事例～』平成15年
『複式学級における学習指導の在り方～はじめて複式学級を担任する先生へ～』平成13年
『へき地教育の未来と北海道教育大学の役割』平成13年
『山村留学シンポジウム報告』平成10年

（注）「へき地・小規模校教育実践プログラム」の開発―地域と未来を開く教師教育―は、文部科学省の「平成十七年度 特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)とは、「大学教育改革」の一つで、国公私立大学における学生教育の中から優れた取り組み(Good Practice)を選定して補助金等の支援を行うものです。



お祭り／みーんなで、さあ、出発(上)
子どもたちみんなでわっしょい、わっしょい!!(下)

へき地教育では、地域の自然や文化を活かした教材開発も重要なテーマです。たとえば、サケの生態を通して、海と川と森が繋がっていることを学んだり、地域の伝統的な行事や芸能を活用して「ふるさと学習」を行ったりなど、総合的な学習の研究としても注目されています。このような特色ある学習は、少人数の良さを活かすとともに、へき地を「碧地」と考えるプラス

広がる研究交流
山村留学シンポジウム、
国際的学術交流

複式学級の指導法は、先人による優れた実践の蓄積があります。へき地教育研究センターでは、北海道立教育研究所と共同研究を行い、道内のへき地校の協力も得て、『複式学級における学習指導の在り方』はじめて複式学級を担任する先生へ』と『複式学級における学習指導の在り方』学年別指導の実践事例』を刊行しています。

みなさんとの関わり
「へき地教育実習」への支援

こうして見ると、へき地教育研究センターは、みなさんとも関わりが深いことがわかるでしょう。

北海道内にとどまりません。離島の多い沖縄県や、山間地にへき地校が点在する島根県の教育センターとも交流して、ワークショップを開催しています。さらに、アラスカ、ロシア、オーストラリアなどの大学とは、へき地教育についての国際的な学術交流も行っています。

人気講座拝見

函館校 心理学Ⅱ いまざいけいいちろう 今在慶一朝先生
【月曜日 1・2講目】

この授業で学ぶことを 自分の興味関心へとつなげて欲しい



— 普段の授業で気をつけられていることはありますか？

心理学専攻の学生には心理学への取っかかりになるように、そうでない学生には学んだ内容を他の方面につなげて活かせるような授業をするように心がけています。そのほかにも心理学はマスコミで取り上げられているような心理テストなどの内容だけだと誤解されやすいので、研究方法や実験を体験してもらい、それだけではないということを伝えるようにしています。

— 教育大生の印象はいかがですか？

真面目でおとなしい人が多いと思います。この授業に関して言えば、心理学専攻以外の学生さんが熱心に受講してくれているのが印象深いですね。

— 学生にはどのような期待をしていますか

受講生がこの授業で学ぶことを、勉強や生活の中のいろいろな場面に当てはめて自分なりの理解をし、自分の興味関心へとつなげて行って欲しいです。



教科書にも使われているご著書



Interviewer
副島千佳

函館校情報社会教育課程社会文化情報コース2年
心理学を勉強していくうえでとても参考になる
お話が聞けました。

施設紹介

一般にも開放 国立大学法人としては唯一 国立公園内にある露天風呂付きの恵まれた施設 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設



大雪山中腹の美しい景観の中に佇んでいる北海道教育大学大雪山自然教育研究施設。通称「六稜山荘」。四季折々の大雪山の変化と共に様々な顔を見せてくれる、ログハウス調の風情のある建物です。中に入ると、1階は食堂、2階は研修室となっており、大人数(30人まで)での宿泊も可能です。1階から階段廊下を下っていくと、この施設の最大の自慢である岩で囲まれた露天風呂があり、秀峰旭岳や夜空の星々を眺めるなど、大自然を満喫しながらゆったりとつかれます。

ここは、野外実習、自然学習、ゼミ研修、スキー合宿、登山、研究会などで毎年多くの人に利用されています。利用者は、主に旭川校の教職員・学生ですが、施設は他大学の教職員・学生、卒業生、一般市民にも開放され、海外の研究者もしばしば訪れています。施設長の浅川哲弥先生のお話では「国立公園内に露天風呂付きのこのような恵まれた施設を持つ国立大学法人は、北海道教育大学だけです。大自然の中のこの施設を大いに利用してください。」とのこと。まだ訪れていない方、是非利用してみてください。



施設全景(上/写真提供:和田恵治先生)
1階食堂(下/写真提供:氷見山幸夫先生)

この施設のご利用は、旭川校財務グループ(電話0166-59-1214)まで
ホームページのURLは、<http://taisetsu.asa.hokkyodai.ac.jp/>

Reporter
林 優季

旭川校学校教育教員養成課程保健体育専攻3年
私は六稜山荘を何度も利用していますが、雰囲気
が良く、いつも心が癒されます。



人事交流

教育研究活動を様々な面から支援

北海道教育大学では、大学の教育研究活動を発展・充実させるため様々な人事交流を積極的に行っています。

今年度は、学生の就職活動を支援するキャリア・オーガナイザーとして近藤安雄氏が、また、大学の広報活動を支援する広報アドバイザーとして瀬川尚彦氏がいらっしゃいました。

お二人にお話を伺いました。

「教育」は 深く豊かなフィールド 瑞々しい好奇心を 持ち続けてほしい



広報アドバイザー
株式会社 電通北海道
統合プランニング室長
瀬川尚彦さん

Q 教育大では、どのようなお仕事をなさっているのですか。

A 本年3月に、教育大学と弊社は相互協力協定を締結しました。これに伴い5月から広報アドバイザーとして、広報企画室会議への出席を続けています。協力協定そのものは、広報戦略、情報通信、芸術・スポーツ教育支援と幅広い内容を含みますが、まずは人間関係の構築と、組織実態の把握を第一に考えています。

Q 教育大の学生に向けて、メッセージをお願いします。

A 学生の皆さんと直接接する機会が無く、さびしい限りです。とはいえ、弊社にも3年前、教育大学出身の学生が入社し、ラジオテレビ部の部員として活躍しています。「教育」という、深く豊かなフィールドに軸足を置きながら、世界や社会に対して、瑞々しい好奇心を持ち続けていただきたいと思います。

Q 周りの人からどんな人だと言われていますか。

A 風貌や話し方から、生真面目で誠実な人間に見られがちですが、親しくなるほどに生真面目は不真面目に、誠実は不実になるようです。それは私自身のせいではなく、人を見る目に欠けた周りの人間のせいかもしれません。

学生の皆さんの、 キャリアへの 貴重な旅立ち そのお手伝いに携わる 幸せを感じて います



キャリア・オーガナイザー
近藤安雄さん

Q ご自身のキャリアを教えてください。

A もともと銀行員で、20年間国際業務に携わり、約半分が海外勤務でした。欧米と東南アジアのビジネスを通じた貴重な体験でした。現在は、公認会計事務所でも中小企業の経営支援を、家事調停委員として家族紛争解決のお手伝いをしています。

Q 教育大では、どのようなことをなさっているのですか。

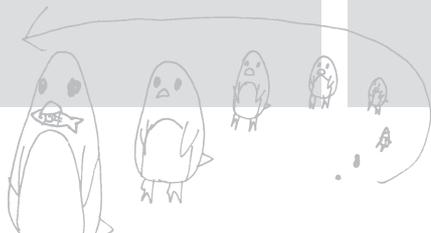
A 一人でも多くの学生の皆さんが、自分に有意義な職場をめざして満足のいく就職活動ができるように、支援体制やシステム作りをしています。皆さんの貴重なキャリアへの旅立ちのお手伝いに携わる幸せを感じています。心を尽くして努めたいと思っています。宜しくお願いします。

Q 趣味を一つだけ教えてください。

A 一つだけ挙げれば映画です。最近印象に残った作品は「シンデレラマン」と「ヴィラ・ドレイク」。いずれも貧しさと挫折の中での家族の絆、愛と信頼を丁寧に描いています。9・11以来のすさみつつある世界で、この2作品が同時に公開された意味の深さを感じています。

Q 教育大の学生の第一印象をお聞かせください。

A 頭も育ちもよさそうで良識もあり大人しい学生が多そうだが、もう少し若者のエネルギーや荒けずりな部分があっても……が第一印象です。



INFORMATION

北海道地区大学体育大会 旭川校女子大会9連覇達成!!

第52回(平成17年度)北海道地区大学体育大会は、北海道教育大学が当番校(函館校担当)となり、7月1日(金)から17日(日)までの日程で男子11種目、女子6種目が実施されました。女子の部では本学旭川校がバスケットボール、バドミントンの2種目で優勝し、総合優勝9連覇を達成しました。

また、女子の部では函館校が準優勝、札幌校が第3位と上位を独占し、男子でも旭川校が準優勝するなど北海道教育大学の健闘が目立った大会となりました。

主な総合成績は次のとおりです。

総合成績

【男子の部】

優勝 道都大学

準優勝 北海道教育大学旭川校

第3位 酪農学園大学

本学関係

第4位 北海道教育大学函館校
第12位 北海道教育大学札幌校
第14位 北海道教育大学釧路校
第16位 北海道教育大学岩見沢校

【女子の部】

優勝 北海道教育大学旭川校

準優勝 北海道教育大学函館校

第3位 北海道教育大学札幌校

本学関係

第6位 北海道教育大学岩見沢校
第14位 北海道教育大学釧路校



活躍しています—学生の積極的活動

「詩のボクシング」全国大会で優勝

橋崎智昭さん(札幌校学校教育教員養成課程4年)

橋崎智昭さんは、10月8日東京イイノホールで開かれた「詩のボクシング」第5回全国大会(日本朗読ボクシング協会主催、審判嵐山光三郎・泉麻人ら)で、自作の詩を手振り・身振りも交え朗読し、みごと優勝しました。新聞各紙やテレビでも報道されました。「大学の演劇サークルでの活動経験が生かされました」(橋崎さんの言葉)



優勝トロフィーを手にする橋崎さん

奨学金の返還について

奨学金の返還は、元利均等方式による月賦又は月賦・半年賦併用で、貸与終了してから6か月経過後の所定期間内に郵便局又は銀行等の預貯金口座からの自動引き落とし(リレー口座)になります。リレー口座申し込みの手続きは、卒業の翌月末までに金融機関の窓口で行うことになっています。

返還される奨学金は、後輩の奨学金の原資になります。本学の学生の返還延滞率が全国平均を上回っており、後輩に対する貸与割り当ての減少が懸念されています。手続き忘れ、延滞が生じないようにしてください。

チャレンジプロジェクト採択決定

本学では、学生の皆さんの教育研究活動の自主性、創造性を発揮できる機会を提供し、大学生活をより快適に、より充実したものにするため、教育研究や地域・社会貢献の分野でユニークでかつ魅力ある企画について支援する「チャレンジプロジェクト」の募集を行っております。今年度については次の11件が採択されました。

「チャレンジプロジェクト'05」採択一覧	
旭川校	老人ホームへのデリバリーコンサート 代表者 新田友紀さん(旭川校芸術文化課程3年)
札幌校	世界が見える日曜日inあいの里 代表者 宮森健輔さん(札幌校国際理解教育課程2年)
旭川校	みんなの環境地図 ワークショップ2005 代表者 岩城千佳子さん(旭川校生涯教育課程2年)
札幌校	マイコンを使ってものづくり教育を地域に還元するプロジェクト 代表者 兼平史郎さん(札幌校学校教育教員養成課程3年)
旭川校	なかまといっしょにふれあい隊 代表者 落合利広さん(旭川校学校教育専修1年)
札幌校	HONEY2006 プロジェクト Hepatitis-prevention Organization for the New Enlightening Year 2006 ～2006年をキルギスにおける肝炎予防年とするための準備組織 代表者 阿部康一さん(札幌校国際理解教育課程3年)
釧路校	ブラックライト音楽劇創造プロジェクト 代表者 宝力 駿さん(釧路校学校教育教員養成課程3年)
函館校	じろじろ大学 夏の学校 代表者 伊藤健太さん(函館校情報社会教育課程3年)
釧路校	北海道教育大学音楽科第6回合同演奏会 代表者 小林 愛さん(釧路校生涯教育課程1年)
旭川校	アイヌ語釧路白糠方言辞典作成 代表者 前田愛美さん(旭川校生涯教育課程3年)
岩見沢校	岩見沢市と連携の衛星遠隔授業プログラムの制作と放送 代表者 福島彩歌さん(岩見沢校学校教育教員養成課程3年)

みなさんもチャレンジしてみましょう!!

「チャレンジプロジェクト」は毎年6月前後に募集要項揭示、6月末応募締め切りで募集しています。詳しくは、揭示または各校学務グループ(札幌校は学生課学生支援グループ)までお問い合わせください。



HUE-LANDSCAPEからのお知らせ

HUE-LANDSCAPEは、教育大のみんなで作る学園情報誌です。積極的に参加して、もっともっとおもしろくしていきましょう!!

らくがきイラスト募集しています!

みなさんのらくがきが、次号の誌面に載っているかも!? 気軽にらくがきを書いて、メールでご連絡ください!



アイデア大募集!

HUE-LANDSCAPEをみなさんのアイデアで育ててください。こんなことが知りたい! こんなことが書いてあったら楽しいのに! など思い付いたことを編集局にメールで教えてください。



前号に対するご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございます。ほんの一部ですが、ご紹介します。

- 教育実習の特集がとても参考になった。
- まだ教育実習はしていないけれど意欲がわいてきた。
- 教育実習の成功談の中に成功例ではないと思うものがあつた。
- イラストなども可愛くて見やすくよかつた。
- 留学先の大学ではどのようなことが学べるかを載せてほしい。
- 面白い卒論テーマに取り組んでいる人の紹介なんかも良いと思う。
- 就活情報をもっと知りたい。

—みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています!

HUE-LANDSCAPEに関するご意見・お問い合わせもメールでお知らせください。

landscape@sap.hokkyodai.ac.jp

新しい芸術とスポーツ教育のキャンパスを、地域の人たちとともに

地域支援推進等プロジェクト2005

「REBORN!」展開中



今年度の地域支援推進等プロジェクト2005「REBORN!」は、
2006年4月より岩見沢校が新しく芸術とスポーツ教育のキャンパスに生まれ変わることをアピールし、
それに携わる教員・学生たちの活動を公開するとともに、
地域の人たち（一般市民および児童・生徒）と交流し、連携を深めることを目的として開かれています。
7月から12月にかけて、スポーツ、音楽、美術の各分野で様々なイベントに取り組んでいます。
これまでの取り組みのいくつかを紹介します。

スポーツプロジェクト

●子どもキャンプ（フレンドシップ事業）

「子どもたちに自然体験を、学生には指導実習を」という目的で、岩見沢市近郊の子どもたち三〇人ほどが参加し、学生が企画から運営までのすべてを行うという「子ども自然体験キャンプ」を、八月十六日～十八日に行いました。今年は和寒町の南丘森林公園が会場。旭川校生涯スポーツコースに協力していただき、充実したキャンプとなりました。

また、単にキャンプで自然体験するだけではなく、なるべくゴミを出さない「エコキャンプ」を子どもとともに考えるという、自然と環境に関する体験も織りこみしました。

●冒険活動体験

十月八日と九日の二日間にわたって、岩見沢ジュニアFCのユースチーム二〇名を岩見沢校に招いて、地域連携プロジェクトの一つとして冒険活動プログラムを実施しました。参加した岩見沢ジュニアFCのユースチームは、市内の中学校に通う子どもたちが集うサッカークラブで、昨年度から活動を始めています。従来の学校運動部と違い、異なる学校から子どもたちが集まっていることもあり、イニシアティブゲーム（グループによる課題解決のゲーム）を中心に仲間づくりを意識したプログラムを実施しました。

音楽プロジェクト

●オペラワークショップ——北海道教育大学オペラ研修所

大学からオペラ歌手とオペラ運動のリーダーが育って欲しい、という願いから同研修所が企画した六日間のオペラワークショップに、大学院生、社会人など十二名が参加し、演出家栗山昌良氏の厳しい指導の下、猛稽古に励みました。最終日の九月三〇日に岩見沢市文化センターで行われた試演会では、モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」から六つの場面が市民に披露されました。

美術プロジェクト

●ARTCITY岩見沢アートプロジェクト

八月から十月にかけて、札幌校と岩見沢校の美術専攻生により、芸術による地域連携プロジェクトが行われました。商工会議所のイベントや岩見沢市の秋祭り「ふるさと百餅祭り」と連携しながら開催されたものです。

イベント会場に出没する「屋台ギャラリィ」、百餅祭りの当日に行われた映像アニメーションを取り入れたSFファンタジー仕立ての「餅ロケット」パフォーマンス、市民参加を呼びかけて催した「アートフリーマーケット」などの企画に毎回数百人の市民が参加しました。

●美術教員作品展「未来への潮流」

十月には、美術教員の作品展を、平面造形と立体造形部門に分けて、それぞれ岩見沢市と札幌市で開催しました。



ARTCITY岩見沢アートプロジェクト「餅ロケット」



オペラワークショップ
演出家栗山昌良氏



オペラワークショップ



子どもキャンプ



美術教員作品展「未来への潮流」

エジプトの小学校理科教育の改善を目指してプロジェクト・チーフアドバイザーとしてカイロに赴任しルワンダで開催された域内会議に参加

ルワンダの現状、そして本当の発展とは……

文 杉山佳彦先生(釧路校)

北海道教育大学では、国際協力機構(JICA)と文部科学省からの委託により、「エジプト・アラブ共和国小学校理科教育改善プロジェクト」を実施しています。現在、教育大の教員及び道教委の先生がカイロに滞在し、プロジェクトを推進しています。

本プロジェクトのチーフアドバイザーの杉山佳彦先生は、ルワンダで開かれた理科教育域内会議に参加し、ルワンダの現状を目の当たりにしました。その時の思い——国際関係学・経済発展・援助の奥に見えてくる涙が出そうになるほどの思いを書いちゃいました。



公開研究授業が行われたルワンダの高等学校

大虐殺・内戦の跡へ

「SMASSE(スマッセ)」が主催する理科教育についての域内会議が、今年の六月にルワンダで行われました。それに参加したのですが、ルワンダと聞いたとたんに連想したのは数年前の大虐殺・内戦でした。何でも一〇〇日間で一〇〇万人の死が虐殺されたとか。

ケニアがあり、その西にある小さな国がルワンダです。標高が高いため、夏でもかなり涼しく、筆者が行った六月初めは、朝は肌寒いほどでした。



生き生きとした公開研究授業

「ルワンダはよいところだ」

ルワンダはナイル川の最源流部の一つで、水は豊富。一年の半分ほどが雨期で、半分ほどが乾期です。気温は一年を通じて暑くも寒くもなく水と緑に恵まれており、砂漠だらけのエジプトからみると天国のようなところだと思います。



'About Rwanda'

言葉は現地語と英語・フランス語。筆者はルワンダの高校の先生と親しくなり、いろいろ彼から教えてもらいました。それを「About Rwanda」と題したノートにメモしていたところ、それを見ていた彼が筆者のノートにルワンダの地図を描き始め、どこに何があるか、国立公園がどこにあるかなどを教えてくださいました。そして最後に、「思いつくことは全部書いた。ルワンダはとてもよいところだ」。

最貧国

それは、国の外部に原因が

水は豊富、気候は温暖。緑が豊かでゴリラが棲息する森林があるほど。また、この人々は内気ですが親切です。ある点では我々日本人と似ているのかもしれない。首都のキガリから会議場までの六〇キロほどの間に車窓から見えたのは、緑の森林に覆われた丘陵、その間を蛇行する川、それらの間に点在する農村といった日本でも昔よく見かけた風景でした。

「この国は、おそらく、もともとは豊かな国であるのに、なぜこんなに貧しいのだろうか?」——これがカイロに戻るまでの間、ずっと筆者の頭から離れなかった疑問です。

過去様々な国の植民地であったこと(公用語に英語とフランス語が採用されていることからうかがえます)、独立(四〇年ほど前に独立)してからも国際政治に翻弄され続けてきたこと(数年前の内紛もその一つであるといわれています)、この二つがその主な原因だとすると、これはルワンダの国の人たちの力だけでは何ともしようがない問題です。国の外部に原因があるのですから。

果として、最貧国の一つとして今のルワンダがあるとすれば、問題を解決するには原因の分析が不可欠です。これはもつれた糸を丁寧に解きほぐす作業でしょう。面倒だからと言って結び目を切ってしまったら、解決は望めません。

経済発展・生活水準の向上——それも押し付け?

ここ十年ほどの間に「国際関係学部」「国際関係学科」といった大学の学部・学科名が増えてきました。また「国際関係学」「開発学」などの研究分野を耳にするものもあります。ルワンダのようになつてしまった国・地域について、なぜそうなったのかを調査研究するのが国際関係

学の一つの役割であり、どうすれば発展してゆけることができるのかを調査研究するのが開発学であると理解しても大きくは外れていないようす。

では、「発展」を測る物差しは何なのでしょう? 経済発展し我々と同じような水準の生活ができるようになることでしょうか? 「経済発展」「我々と同じような生活水準」という物差しは本来のルワンダにあった物差しなのでしょうか? もし違うとすると「発展を援助する」といながら、元々なかった発展の度合いをはかる経済発展、生活水準という物差しを押し付けることになりはしないでしょうか?

あるいはデモクラシーの普及でしょうか? 「デモクラシー」

についても全く同じことが言えないでしょうか?

「国際関係学」「発展」の陥穽

こんなことを考え続けていると、涙が出そうになってきました。それは、ルワンダの人たちがかわいそうだという思いでも、過去の植民地支配に対する憤りでも、今の「アメリカ帝国主義」「アメリカンデモクラシーの押しつけ」や「市場経済万能主義」に対する憤りでもありません。「国際関係学」といった分野を開拓し、現在のように一つの学部・学科を作ることができたに成長させてきた人たちが、そして我々もまた「発展」という



宿舎のセキュリティボリスと筆者

杉山佳彦(すぎやまよしひこ) 昭和六十二年九月広島大学大学院教育学研究科進学。同年十月から北海道教育大学釧路校に教育学教育担当として勤務。今年四月より、エジプト・アラブ共和国小学校理科教育改善プロジェクトのチーフアドバイザーとしてカイロに赴任。



青年海外協力隊へ応募してみませんか!!

JICA(国際協力機構)青年海外協力隊の隊員として、これまで100名近くの教育大OB、OGの方々が、小学校教師、理数科教師、養護教諭、日本語教師、体育など多様な分野で活躍してきました。

是非、みなさんもチャレンジを! 素晴らしい経験が待っています。

椎谷健一さん(2004年7月からウガンダで理数科教師隊員として活動)のお話

●活動内容と今後の意気込みを?

小学校の先生を目指す学生に対して、理数科やコンピュータの基本操作などを指導しています。活動期間も後半に入り、最近よく考えることは、1年前と1年後の私自身のことです。1年前よりも、また今よりも1年後の方がずっと遅くなっていたい。帰国時に、ウガンダで2年間過ごせて心から良かったと笑って言えるようになりたい。そのために努力していこうと思います。

●ウガンダの好きなのところは?

基本は楽しく、元気が一番、でもおのんびり。

応募に関する詳細は、JICAホームページ(<http://www.jica.go.jp/>)をご覧ください。



授業名「地域の生活と文化体験」——通称「ツアークラス」——この留学生向けの授業と一緒に参加する日本人学生を募集していたので、国際理解教育課程3年目のメンバー数名と一緒に申し込んで参加してみました。授業のメンバーは、留学生9名、日本人学生8名、先生2名。授業内容はまず事前学習をして(日本人学生が交代で留学生に説明)、次の週に実際にいろんな施設をみんなで見学する、といった活動を通して日本文化等を学ぶというものでした。

第1回ツアーの行き先は、高龍寺・谷地頭温泉・函館八幡宮・函館山！ 前もって仏教と神道について学習してから向いました。バスやタクシーを使ってみんなで大騒ぎしながら向う感じは、何だか遠足みたい。函館八幡宮では、おみくじを引いたり、お守りを買ったり。おみくじの内容を英語で説明してって言われたときは……大変でした。書いていることは日本人にとっても難しいし……。函館山展望台に着いたときには見事な夕焼けを見ることができました。予定されていた時間を延長し、留学生と日本人学生だけ残って暗くなるのを待ち、夜景を見て、定番ラッピ(ラッキーピエロ)で夕食して解散しました。



①事前学習 ②みんな大騒ぎのバス移動。何だか遠足みたい ③函館八幡宮 ④留学生とも仲良しに！ ⑤函館山での夕焼け



もっと知りたい留学生！

ビバ★日本文化！ ビバ★国際交流！！



今年度の前期に、留学生向けの授業として初めて開かれた「ツアークラス」。私たち函館校国際理解教育課程(国理)3年目有志は留学生支援という形で、この授業と一緒に参加しました！！



⑥茶道の野点を体験 ⑦座禅体験。足が痛い〜！



函館戦争とアイヌの歴史について事前学習してから、第2回ツアーでは市立函館博物館五稜郭分館・五稜郭タワー・北方民族資料館へ。五稜郭タワーからの眺めに盛り上がり、新撰組グッズを買い求めるメンバーたち(日本人学生も)。今建設中の新しい五稜郭タワー(2006年4月完成予定)からの眺めはカナリすごいんだろうなあ。

そして第3回ツアーは、事前に座禅と茶道について学習してから、宇治園と宝琳寺へ。ツアーはこの3回目が最後。茶道の野点&座禅体験！！でツアー一番の盛り上がり。留学生だけでなく日本人学生にとってもなかなか体験できないことに、行きのバスからみんな大はしゃぎ。この日は天気にも恵まれ、気持ちよい空の下で野点。足が痛くなりながら座禅。本当に楽しかったです。

この授業は留学生と仲良くなれ、同時に改めて日本文化を学ぶこともでき、本当に素晴らしい経験になりました。もちろん全部の日程が終わったあとは、みんなで打ち上げに行きました！



By 函館校国際理解教育課程
3年目有志
(代表 大山由起子)

札幌校

札幌校のある「あいの里」は、札幌市の北のほうにある住宅街。散策すると、緑道や公園など、緑が多く気持ちが良い場所です。



札幌校 周辺 map



①ピストロ・モナムール

おしゃれで、とってもおいしいフランス料理のお店。ここを貸し切り、演奏会もできちゃいます。



②tummy button (タミイボタン)

ティールームと雑貨のある、かわいいお店です。すてきなアフタヌーンティーを楽しめます。



③たけのご公園

この公園は、たけのこの形をした水道があるユニークな公園です。



④チャイナキッチン ツムラ

ボリューム満点のメニューが有名。教育大生なら誰もが行ったことあるはず!? 通称チャイキチ。



⑤モール周辺

東急ストアや生協があって、レンタル屋さんやカラオケするところもあり、あいの里の中心地であります。

Reporter

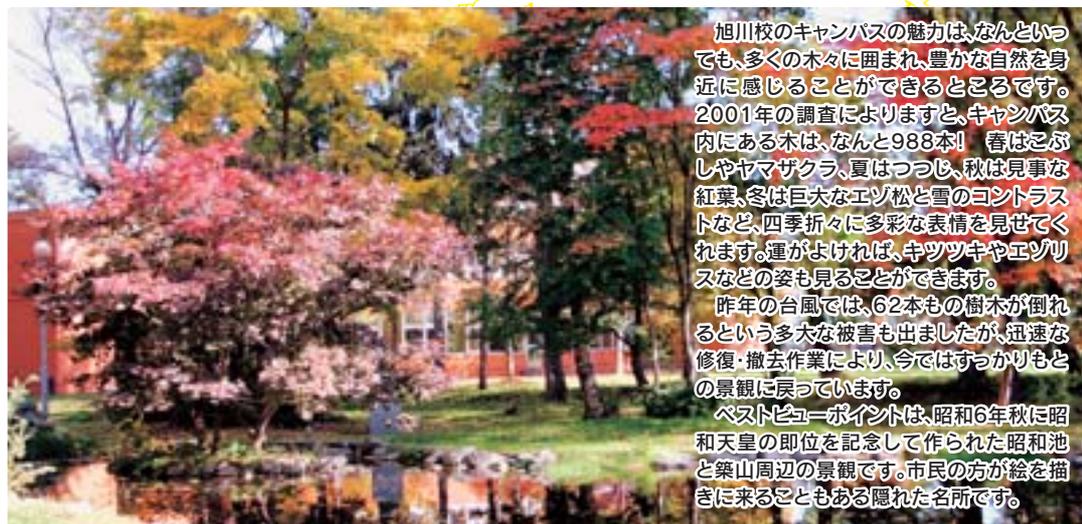
堀 有希子

札幌校学校教育教員養成課程
教育実践専攻2年
ユニークな名前の公園がいたるところにあって、公園スタンプラリーをしても面白いかもしれません。



旭川校

市民の方が絵を描きに来る 隠れた名所



憩いのスポット 昭和池

旭川校のキャンパスの魅力は、なんといっても、多くの木々に囲まれ、豊かな自然を身近に感じることができることです。2001年の調査によりますと、キャンパス内にある木は、なんと988本! 春はさくらやヤマザクラ、夏はつつじ、秋は見事な紅葉、冬は巨大なエゾ松と雪のコントラストなど、四季折々に多彩な表情を見せてくれます。運がよければ、キツツキやエゾリスなどの姿も見ることができます。

昨年の台風では、62本もの樹木が倒れるという多大な被害も出ましたが、迅速な修復・撤去作業により、今ではすっかりもとの景観に戻っています。

ベストビューポイントは、昭和6年秋に昭和天皇の即位を記念して作られた昭和池と築山周辺の景観です。市民の方が絵を描きに来ることもある隠れた名所です。



Reporter

吉川 健太

旭川校生涯教育課程
生涯スポーツコース3年



今回は、札幌校のキャンパス周辺を紹介していきます。いろいろなお店も公園も多そうですね。そして、今回からは新たにそれぞれのキャンパスの魅力を紹介していきます。まずは、旭川校です。